

4-4 10月1日-3月31日

■復旧・復興へ一歩ずつ

9月30日に緊急時避難準備区域が解除された後の10月17日、原町第一、原町第三、大甕の3小学校と原町第一、原町第二の2中学校が再開、26日には県立原町高校も本来の校舎での授業を再開した。

住居関連では、原町区に応急仮設住宅が10月1日に着工、11月15日には入居開始、市内の避難所としては10月末に石神第一小とひがし生涯学習センターの避難所が閉所、雲雀ヶ原陸上競技場に統合されたのち、12月28日には全避難所の閉鎖となった。

11月初旬、各地区で恒例行事としての秋まつりや復興を記念しての集いが催され、おのこの地区で地域の絆を確かめ合い、復興を誓いあった。

11月下旬には「復興計画」「除染計画」の説明会が開かれるとともに、「南相馬市復興シンポジウム」が開催され、復興・再生への道筋を考える機会が多く設けられた。復興計画については、12月18日開催の南相馬市復興市民会議において、「世界に誇る南相馬の再興を」をスローガンに掲げた計画案がとりまとめられた。この時期には、鹿島・中央図書館や保健センターなど、公共施設が供用再開、また、12月21日にJR常磐線が原ノ町一相馬間の運行を開始するなど、震災前の姿へ向けて一歩ずつ歩み始めた。

平成24年の成人式は、1月8日に合併後初めての三区合同での開催され、692人の新成人のうち560人が式に臨んだ。

震災から1年となる平成24年3月11日は、南相馬市東日本大震災追悼式を開催、参列した遺族は失った家族や友人をしのぶとともに、生活が一変した苦難の1年を振り返った。その1週間後の3月18日には「南相馬市復興市民総決起大会」が開催され、原子力災害と震災被害からの復旧・復興に向けて思いを新たにした。



南相馬市内

	地震・津波・原発事故の状況	南相馬市内の状況とその時起こった出来事
2011/10/1		災害対策本部 土日祝日閉庁に変更 緊急時避難準備区域の解除を受けて、原町区に仮設住宅の建設を開始 第4回南相馬市復興市民会議（南相馬市復興計画「分野別施策」「土地利用の方向性」について議論） 警戒区域へバス・自家用車による一時立入り（2巡目 第3回 323人）
2011/10/3		ガラスバッジを妊婦や18歳以下の希望者5,354個の配布開始 第211回災害対策本部会議
2011/10/6		警戒区域へバス・自家用車による一時立入り（2巡目 第4回 614人）
2011/10/7		第212回災害対策本部会議
2011/10/8		原町保健センター「わかちあいの会」開始 第2回南相馬市復興有識者会議（有識者への復興市民会議の経過説明及び南相馬市復興計画についての意見交換） 警戒区域へ自家用車による一時立入り（2巡目 第5回 683人）
2011/10/10 11:45	南相馬市で震度4を観測	
2011/10/11		第213回災害対策本部会議 [第2回南相馬市復興有識者会議]
2011/10/12		警戒区域へバスによる一時立入り（2巡目 第6回 68人）
2011/10/13		警戒区域へ自家用車による一時立入り（2巡目 第7回 542人）
2011/10/14		第214回災害対策本部会議
2011/10/15		第5回南相馬市復興市民会議（南相馬市復興計画について議論） 警戒区域へ自家用車による一時立入り（2巡目 第8回 613人）
2011/10/17		原町区の小、中学校を一部再開（原町一小、原町三小、大甕小、原町一中、原町二中） 第215回災害対策本部会議
2011/10/21		第216回災害対策本部会議
2011/10/23		鹿島区西町に仮設商店街がオープン 警戒区域へ自家用車による一時立入り（2巡目 第9回 768人）  [仮設商店街オープン（鹿島区西町）]  [仮設商店街オープン（鹿島区西町）]
2011/10/24		第217回災害対策本部会議

※赤字は地震、津波関連
※橙字は福島第一原発事故関連

□は福島民報本紙記事の要約
△は「ふくしま1年の記録」

◇は「ふくしまの30日」
☆は「事故独立委員会報告書」

国内・県内

地震・津波・原発事故の状況	国内・県内の出来事	
		2011/10/1
	 	
	[仮設住宅建設（原町第二中学校前）] [仮設住宅建設（原町第二中学校前）]	
福島県沖を震源とするM5.6の地震が発生		2011/10/10 11:45
環境省は年間被ばく線量が1mSv以上の地域について国が財政措置をして除染する基本方針案を決定。5mSv未満は局所的に線量が高い場所を中心に除染する当初方針を撤回△	 	
	[ガラスバッジ] [ガラスバッジ配布（鹿島小学校）]	
県はコメの本調査を終了し、全校体の放射性セシウムが食品衛生法の暫定基準値（1kg当たり500Bq）を下回ったと発表。今年作付けした48市町村全域で出荷可能となり、佐藤福島県知事が安全宣言△	 	2011/10/12
	[大蘆小学校校舎にて学校再開] [再開後の全校集会]	
9月定例県議会の最終本会議で、東電福島第二原発を含む県内10基全ての廃炉を求める請願を出席者全員の賛成で採択。佐藤福島県知事は全基廃炉を県土再建の土台とし、復興計画を作る方針を示唆△		2011/10/20
政府は東日本大震災からの本格復興に向け、12兆1025億円の財政支出を盛り込んだ第3次補正予算案を閣議決定。当初予算に3度の補正予算を加えた予算総額は106兆3987億円で過去最大△		2011/10/21
県内の大学、自治体関係者らを中心とするベラルーシ・ウクライナ福島調査団が出発。11月4日にはチェルノブイリ原発を訪れ、事故後の現状を視察△	 	
	[原町高校自校にて学校再開] [再開後の全校集会]	

※赤字は地震、津波関連

※**橙字**は福島第一原発事故関連

※緑字は政府の指示、決定事項

口は福島民報本紙記事の要約

△は「ふくしま1年の記録」

◇は「ふくしまの30日」

☆は「事故独立委員会報告書」

南相馬市内

	地震・津波・原発事故の状況	南相馬市内の状況とその時起こった出来事
2011/10/27		
2011/10/28		第218回災害対策本部会議 警戒区域へ自家用車による一時立入り（2巡目 第10回 867人）
2011/10/30		石神一小体育館の避難所を閉鎖、新設置の雲雀ヶ原陸上競技場管理棟へ移動 警戒区域へ自家用車による一時立入り（2巡目 第11回 912人）
2011/10/31		第219回災害対策本部会議
2011/11/1		原町区内生涯学習センター再開 原町区・鹿島区の学校施設（体育館・校庭）の一般使用再開
2011/11/2		警戒区域へバスによる一時立入り（2巡目 第12回 22人）
2011/11/3		あきいち2011（原町区旭公園、まちなかひろば）
2011/11/4		第10回市議会臨時会（原子力災害対策、被災者支援、災害廃棄物処理対策などを 実施するための補正予算を可決、総額498億9468万円） 第220回災害対策本部会議
2011/11/5		かしま区秋の復興祭 警戒区域へ自家用車による一時立入り（2巡目 第13回 896人）
2011/11/6		「小高へ帰ろう！！の集い」開催（鹿島生涯学習センター）
2011/11/7		鹿島保健センター「高齢者向け自由参加型サロン」開始 第221回災害対策本部会議
2011/11/9		鹿島保健センター「リトミック教室」開始
2011/11/10		警戒区域へ自家用車による一時立入り（2巡目 第14回 681人）
2011/11/11		第222回災害対策本部会議
2011/11/13		警戒区域へ自家用車による一時立入り（2巡目 第15回 514人）
2011/11/14		第223回災害対策本部会議
2011/11/15		原町区の応急仮設住宅へ入居開始
		 〔仮設（桜井町）〕  〔仮設住宅 鍵引き渡し（桜井町）〕

※赤字は地震、津波関連
※橙字は福島第一原発事故関連

□は福島民報本紙記事の要約
△は「ふくしま1年の記録」

◇は「ふくしまの30日」
☆は「事故独立委員会報告書」

国内・県内

地震・津波・原発事故の状況	国内・県内の出来事	
食品中の放射性物質による内部被ばくの影響について、内閣府の食品安全委員会は「生涯の累積線量が100mSv以上で健康への影響が見いだされる」とする評価書をまとめ、厚生労働省に答申。これを受け厚生労働省は食品の暫定基準値を厳格化する方針△		2011/10/27
環境省は除染で出る汚染廃棄物を保管する中間貯蔵施設を今後3年程度を目標に県内に整備し、廃棄物は貯蔵開始から30年以内に県外で処分するとして工程表を発表△		2011/10/29
	〔石神第一小学校体育館の難所閉鎖〕	
	県が開設している県内の1次、2次避難所の全面閉鎖期限を迎えたが、仮設住宅の建設の遅れなどで約300人が避難所に残る△	2011/10/31
	国税庁は平成23年分の県内路線価の調整率を発表。福島第一原発事故の避難区域は実質ゼロとし、相続、贈与税負担を免除△	2011/11/1
原子力安全委員会の作業部会は、原発事故に備えて防災対策を重点的に実施する地域を福島第一原発から半径10kmから半径30kmに拡大することで合意。屋内退避や安定ヨウ素剤の服用を考慮する地域を新設、半径50kmを目安とした△		
		
	〔かしま復興秋まつり（鹿島区）〕	
	チベット仏教最高指導者でノーベル平和賞受賞者のダライ・ラマ14世が郡山市の日大工学部で講演し、原発事故で苦境にある県民にメッセージ△	2011/11/6
	原発事故の賠償で、双葉町は町民に代わって独自に損害賠償請求するため、東電と交渉する弁護士結成を決める。避難自治体では初めて△	2011/11/7
	東日本大震災で延期されていた県議選が告示。定数58に対し、88人が立候補△	2011/11/10
政府と東電は福島第一原発構内を事故後初めて報道陣に公開。吉田所長は「県民に発電所の事故で、ご迷惑、ご不便をお掛けし心よりおわびしたい」と謝罪△		2011/11/12
	県の県民健康管理調査で、18歳以下の子ども約36万人を対象にした甲状腺の全県巡回検査が川俣町をトップに開始△	2011/11/14
	国際組織犯罪・国際テロ対策推進本部の初会合にて、原子力発電所の防護強化を確認☆	2011/11/15
福島市大波地区で収穫された玄米から食品衛生法の暫定基準値（1kg当たり500Bq）を超える630Bqの放射性セシウムを検出。県が発表。市を通じて生産者、流通業者などに同地区の今年産米の出荷自粛を要請△		2011/11/16
政府は県に福島市大波地区の今年産米出荷を当分の間停止するよう指示。原発事故によるコメ出荷停止は初めて△		2011/11/17
	〔真野小学校 万葉ふれあいセンターから引っ越し〕	
※赤字は地震、津波関連 ※橙字は福島第一原発事故関連	※緑字は政府の指示、決定事項 □は福島民報本紙記事の要約 △は「ふくしま1年の記録」 ◇は「ふくしまの30日」 ☆は「事故独立委員会報告書」	

南相馬市内

	地震・津波・原発事故の状況	南相馬市内の状況とその時起こった出来事
2011/11/18		第224回災害対策本部会議
2011/11/19		警戒区域へバス・自家用車による一時立入り（2巡目 第16回 293人）
2011/11/20		ふくしま駅伝（白河市～福島市）総合12位、市の部10位
2011/11/21		「南相馬市除染計画（第1版）」を策定 第225回災害対策本部会議
2011/11/23		南相馬市復興計画及び除染計画（第1版）市民説明会を万葉ふれあいセンターにて実施
2011/11/25		結婚から50年を迎えた夫婦を祝う「金婚祝賀会」開催（ロイヤルホテル丸屋）
		第226回災害対策本部会議
2011/11/27		「南相馬市復興シンポジウム」開催（南相馬市民文化会館ゆめはっと 大ホール）
2011/11/28		警戒区域へバス・自家用車による一時立入り（2巡目 第15回 867人） 第227回災害対策本部会議
2011/11/29		南相馬市復興計画及び除染計画（第1版）市民説明会を道の駅南相馬にて実施（1回目）
2011/11/30		南相馬市復興計画及び除染計画（第1版）市民説明会を道の駅南相馬にて実施（2回目）
2011/12/2		第228回災害対策本部会議
2011/12/5		第11回市議会定例会（12月5日～22日、原子力災害対策、被災者支援、災害廃棄物処理対策などを実施するための補正予算を可決、総額581億1890万円） 市内の本格的な除染に向けて体制強化を図るため、除染推進委員会を立上げ 第229回災害対策本部会議
2011/12/6		鹿島図書館と情報交流センターが再開
2011/12/9		警戒区域から車両持出の実施（2巡目開始 第1回 62台） 警戒区域へバス・自家用車による一時立入り（2巡目 第17回 12人） 第230回災害対策本部会議
2011/12/12		第231回災害対策本部会議

※赤字は地震、津波関連
※橙字は福島第一原発事故関連

□は福島民報本紙記事の要約
△は「ふくしま1年の記録」

◇は「ふくしまの30日」
☆は「事故独立委員会報告書」

国内・県内

地震・津波・原発事故の状況	国内・県内の出来事	
	ブータンのジグメ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王とジェツン・ペマ王妃は相馬市を訪問。被災地で慰霊し、児童らと交流△	2011/11/18
	震災で延期されていた県議選（定数58）は無投票の5選挙区（7人当選）を除く14選挙区で投開票。投票率47.51%は過去最低。双葉町は埼玉県加須市で開票△ 第23回ふくしま駅伝が開催され、相原選手らが出場したいわき市が優勝△ 福島県議会議員選挙	2011/11/20
政府の原子力災害現地対策本部は特定避難勧奨地点に新たに相馬市20地点（22世帯）伊達市13地点（15世帯）の計33地点（37世帯）を追加指定△		2011/11/25
福島第一原発事故を受けた国際放射線防護委員会（ICRP）は「汚染地域の除染や復興には住民との対話が重要」との政府、県への提言をまとめる。26日から県庁で意見交換会を開催△		2011/11/27
		
政府は原子力災害対策特別措置法に基づき、汚染米が収穫された伊達市の霊山町小園地区と月舘町の一部の今年産米の出荷を停止するよう県に指示。福島市大波地区に続き2例目△		2011/11/29
	〔鹿島小学校に建設された仮設校舎〕	〔小高中学校 仮設校舎での授業開始〕
	震災で損壊したいわき市平薄磯の塩屋埼灯台で再点灯式△	2011/11/30
	復興に取り組む本県の姿を発信する「Blue Sky Project in NY」のレセプションが米国在ニューヨーク総領事・大使公邸で開催。福島民報社など提供の写真パネルを展示△	2011/12/1
	東北地方の高速道路で東日本大震災の被災者以外の車も無料通行できる新制度がスタート。太平洋側の東北道などでは全車両が毎日無料△	
福島市渡利地区の農家3戸のコメから国の暫定基準値を超える放射性セシウムを検出。県は同地区を含む旧福島市のコメの出荷自粛を要請。同市大波地区（旧小国村）でも新たに2戸で基準値超え。県内で基準値超は計18戸に△		2011/12/2
	〔除染推進委員会を発足〕	
	原子力損害賠償紛争審査会が避難指示が出ていない本県の23市町村150万人に賠償する新たな指針を決定。妊婦、子ども40万円、他は8万円△	2011/12/6
細野環境相兼原発事故担当相が汚染廃棄物の中間貯蔵施設を双葉郡内に整備する意向を双葉郡の自治体関係者に伝える△		2011/12/12

※赤字は地震、津波関連

※橙字は福島第一原発事故関連

※緑字は政府の指示、決定事項

□は福島民報本紙記事の要約

△は「ふくしま1年の記録」

◇は「ふくしまの30日」

☆は「事故独立委員会報告書」

南相馬市内

	地震・津波・原発事故の状況	南相馬市内の状況とその時起こった出来事
2011/12/15		東電に要求書を提出
2011/12/16		第232回災害対策本部会議
2011/12/17		警戒区域へバス・自家用車による一時立入り（2巡目 第18回 2人） 警戒区域から車両持出の実施（2巡目 第2回 31台）
2011/12/18		第7回南相馬市復興市民会議（南相馬市復興計画（案）について議論）
2011/12/19		第233回災害対策本部会議
2011/12/21		JR常磐線再開（原ノ町～相馬） 「南相馬市復興計画」を策定
2011/12/22		警戒区域へバス・自家用車による一時立入り（2巡目終了 第19回 1人） 警戒区域から車両持出の実施（2巡目終了 第3回 10台）
2011/12/23		八坂神社宝財踊り 「台湾との少年野球交流会」に市の中学生15人が招待（～26日） 「元気だ！南相馬NANTO餅つき実行委員会」（～24日）
2011/12/24		
2011/12/26		第234回災害対策本部会議
		【八坂神社宝財踊り】 【八坂神社宝財踊り】
		【仮設住宅 雪景色】 【災害がれき置場】

※赤字は地震、津波関連
※橙字は福島第一原発事故関連

□は福島民報本紙記事の要約
△は「ふくしま1年の記録」

◇は「ふくしまの30日」
☆は「事故独立委員会報告書」

国内・県内

地震・津波・原発事故の状況	国内・県内の出来事	
長期間の低線量被ばくの健康影響を検討する政府の作業部会は、除染で低減を目指す被ばく線量に中間的な目標値を設定することを盛り込んだ提言をまとめる。2年後に年間線量を10mSv、次の段階は5mSvと段階的に下げるよう提案△		2011/12/15
野田首相が福島第一原発事故に関し「原子炉は冷温停止状態に達し、事故そのものが収束に至ったと確認された」と述べ、事故収束への工程表の「ステップ2」完了を宣言△		2011/12/16
	[JR常磐線 車両組立]	
	[JR常磐線再開]	
	政府は避難区域を見直し、平成24年4月1日にも放射線量に応じた新たな3区域に再編する考えを県、関係市町村に伝達△	2011/12/18
	環境省は除染を国の財政負担で行う前提となる「汚染状況重点調査地域」に本県40市町村を含む8県102市町村を指定。国直轄で行う県内11市町村も発表△	2011/12/19
	浪江町議会は東北電力が計画する浪江、小高原発の誘致決議を白紙撤回する決議を可決。小高地区を含む南相馬市議会も建設中止を決議しており、立地市町の議会がそろって中止の方向。建設は事実上困難に△	2011/12/21
厚生労働省は、食品に含まれる放射性セシウムの新たな基準値案を公表。現行の暫定基準値を大幅に厳格化。コメなど一部に経過措置△		2011/12/22
	東北最大規模の屋内遊戯施設「郡山市元気な遊びのひろば（愛称・ペップキッズこおりやま）」が市内横塚に開所。放射能の影響で屋外遊びを控える子どもら1,000人以上が訪れる△	2011/12/23
	政府が2012年度予算案を決定。一般会計歳出は90兆3339億円と6年ぶりに縮小。東日本大震災の復興費用を特別会計で手当てすることなどのため歳出総額は約96兆円と実質で最大規模	2011/12/24
政府は原発事故「収束宣言」を受けて3月末をめどに避難区域を年間被ばく放射線量に従い、「避難指示解除準備区域」「居住制限区域」「帰還困難区域」の3区域に再編すると決定。居住できる目安は従来基準と同様、年間20mSv以下		2011/12/26
政府の福島第一原発事故調査・検証委員会が中間報告公表。1号機にある非常用の原子炉冷却装置を全運転員が作動させた経験がないなど、各号機の冷却操作で不手際があり、炉心損傷を早めた可能性があると指摘。東電は事業者として「極めて不適切」		
	[南相馬市復興市民会議]	
農林水産省は1kgあたり500Bqを超える放射性セシウムを含む検体が出て出荷停止となった地域のコメと、100Bqを超えた農家のコメを民間団体などを通じ出荷代金相当額で買い上げる支援策を決定		2011/12/27
県議会は12月定例会最終本会議で政府の原発事故収束宣言について「県の実態を理解しているとは言いがたい。宣言を撤回し、避難住民が帰還できる環境の実現を強く要望する」との意見書を全会一致で可決		
	[仕事納めの式 南相馬市市内]	
※赤字は地震、津波関連 ※橙字は福島第一原発事故関連	※緑字は政府の指示、決定事項 □は福島民報本紙記事の要約 △は「ふくしま1年の記録」 ◇は「ふくしまの30日」 ☆は「事故独立委員会報告書」	

南相馬市内

	地震・津波・原発事故の状況	南相馬市内の状況とその時起こった出来事
2011/12/28		
2012/1/1 14:27	南相馬市で震度4を観測	
2012/1/4		南相馬市役所前の駐車場にて「南相馬市復興はしご乗り」開催 
2012/1/8		第235回災害対策本部会議 南相馬市成人式 (市として初めての合同成人式) 野田首相が南相馬市を視察 [復興はしご乗り(小高神社)]
2012/1/10		太田小、原町二小、高平小が自校で再開する 第236回災害対策本部会議
2012/1/13		第237回災害対策本部会議
2012/1/15		
2012/1/17		第238回災害対策本部会議 [三区合同成人式]
2012/1/18		津波で殉職した県内消防団員24人の「東日本大震災県消防殉職者慰霊式」を南相馬市で実施△ 
2012/1/20		第239回災害対策本部会議 [県消防殉職者慰霊式]
2012/1/23		地域協議会による警戒区域視察
2012/1/24		第1回市議会臨時会(原子力災害対策、被災者支援を実施するための補正予算を可決、補正後583億6994万円) 第240回災害対策本部会議
2012/1/27		南相馬市放射線対策総合センターが開所 第241回災害対策本部会議
2012/1/31		第242回災害対策本部会議

※赤字は地震、津波関連
※橙字は福島第一原発事故関連

□は福島民報本紙記事の要約
△は「ふくしま1年の記録」

◇は「ふくしまの30日」
☆は「事故独立委員会報告書」

国内・県内

地震・津波・原発事故の状況	国内・県内の出来事	
細野環境相兼原発事故担当相は汚染廃棄物を受け入れる中間貯蔵施設について、双葉郡内に整備する意向を佐藤雄平知事と地元首長に正式に伝える。大熊、双葉両町が候補地に浮上		2011/12/28
鳥島近海を震源とするM7.0の地震が発生		2012/1/1 14:27
佐藤知事が年頭記者会見で県が米の放射性物質の全量（全袋）検査を生産、流通業者が実施する体制を平成24年度米の出荷分から整える方針表明		2012/1/4
	〔初詣（男山八幡神社）〕	
	〔初詣（三嶋神社）〕	
野田首相が23市町村の自主避難者らへの賠償金支払いを3月末までに開始する方針示す△		2012/1/8
二本松市若宮のマンスションの室内で屋外より高い放射線量が検出されたと市が発表。計画的避難区域となった浪江町津島の砕石場の石を使用△		2012/1/15
	〔神楽披露（原町区野馬追通り銘醸）〕	
浪江町津島から出荷された砕石を原料にした生コンを使用した現場は1千力所近くに上ることが、経産省の調査で判明△	常陸宮ご夫妻が飯館村住民が生活する福島市の仮設住宅をご訪問△	2012/1/17
東電が文部科学省原子力損害賠償紛争審査会の中間指針に基づき、県民の健康検査費用として県に対し250億円を賠償する方針を固める△		2012/1/18
	〔初売り（原町区）〕	
	1月1日現在の県推計人口は198万2,991人。1年間で4万4,147人減少と県が発表△	2012/1/20
	環境省福島環境再生事務所が福島市に開所△	2012/1/21
	自主避難者らへの賠償で対象外となった県南、会津地方への対策として、政府が本県に430億円を交付する方針を固める△	2012/1/22
環境省が警戒区域や計画的避難区域の11市町村の除染工程表を発表△		2012/1/26
		
	〔一時立入り〕	〔一時立入り〕
	全村避難した川内村の遠藤村長が「帰村宣言」△	2012/1/31

※赤字は地震、津波関連

※橙字は福島第一原発事故関連

※緑字は政府の指示、決定事項

□は福島民報本紙記事の要約

△は「ふくしま1年の記録」

◇は「ふくしまの30日」

☆は「事故独立委員会報告書」

南相馬市内

	地震・津波・原発事故の状況	南相馬市内の状況とその時起こった出来事
2012/2/1		鹿島区、原町区でスポーツ施設を一部再開
2012/2/3		第243回災害対策本部会議
2012/2/7		第244回災害対策本部会議
2012/2/8		
2012/2/10		復興庁が業務開始。福島市に復興局、南相馬市といわき市に支所△ 第245回災害対策本部会議
2012/2/11		警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目開始 第1回 585人）
2012/2/12		福島県主催の第3回安全・安心フォーラム～除染に向けて～開催 全日本アンサンブルコンテスト東北大会で原町二小が金賞受賞
2012/2/14		第246回災害対策本部会議
2012/2/17		警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第2回 713人） 第247回災害対策本部会議
2012/2/19		第11回マーチング&パトンステージ全国大会でH-Seedsが優秀賞 警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第3回 880人）
2012/2/21		第248回災害対策本部会議
2012/2/23		警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第4回 698人）
2012/2/24		第249回災害対策本部会議
2012/2/25		警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第5回 723人）
2012/2/27		石一小・石二小・石神中・原町三小が自校で再開する
2012/2/28		第250回災害対策本部会議
2012/3/1		食品の放射能分析測定スタート（石神生涯学習センターなど8ヶ所）
2012/3/2		第2回市議会定例会（3/2～22、平成24年度当初予算は復興計画の推進を基本に過去最大878億1275万円の予算を編成） 警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第6回 735人）
2012/3/4		警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第7回 910人） 第251回災害対策本部会議
2012/3/6		第252回災害対策本部会議
2012/3/8		警戒区域へバスによる一時立入り（3巡目 第8回 47人）
2012/3/9		警戒区域へバスによる一時立入り（3巡目 第9回 7人） 第253回災害対策本部会議
2012/3/10		警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第10回 568人）
2012/3/11		南相馬市東日本大震災追悼式（南相馬市民文化会館ゆめはっと 大ホール） ふくしま復興の誓い2012 キャンドルナイト「希望のあかり」開催
2012/3/13		市内の公立中学校卒業式 第254回災害対策本部会議
2012/3/14		警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第11回 386人）
2012/3/16		警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第12回 395人）
2012/3/17		南相馬市復興祭「夢 元気 ふれあいフェスタ」開催
2012/3/18		南相馬市復興市民総決起大会（南相馬市民文化会館ゆめはっと 大ホール） 警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第13回 621人）
2012/3/21		第255回災害対策本部会議
2012/3/23		市内の公立小学校卒業式 警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第14回 66人）
2012/3/24		警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第15回 403人）
2012/3/25		滋賀県近江八幡市と災害時相互応援協定を締結
2012/3/26		
2012/3/27		第256回災害対策本部会議
2012/3/30		放射線・除染講習会（道の駅南相馬ホール） 警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目 第16回 3人）
2012/3/31		常磐自動車道開通記念ウォーキング 警戒区域へ自家用車による一時立入り（3巡目終了 第17回 111人）

※赤字は地震、津波関連
※橙字は福島第一原発事故関連

□は福島民報本紙記事の要約 ◇は「ふくしまの30日」
△は「ふくしま1年の記録」 ☆は「事故独立委員会報告書」

国内・県内

地震・津波・原発事故の状況	国内・県内の出来事	
	県が震災と原発事故への対応が7255億円とほぼ半数を占める平成24年度当初予算案を発表。一般会計は過去最高の1兆5764億円△	2012/2/2
	県は2011年産米の放射性物質緊急調査の最終結果を公表。焦点となる100Bq超500Bq以下は12市町村の旧56市町村△	2012/2/3
	政府が今国会に提出する「福島復興再生特別措置法案」を福島復興再生協議会で示す△	2012/2/4
	県警察学校で警視庁と21道府県警から特別出向した警察官350人を迎え、入県式。愛称は「ウルトラ・ポリス・フォース（ウルトラ警察隊）」△	2012/2/6
政府が県原子力被害応急対策基金（仮称）の一部を世帯、個人への助成に充てることを認める方針固める。県南、会津地方の住民への給付に道筋△		2012/2/8
	いわき市のスパリゾートハワイアンズが約11カ月ぶりに全館で営業再開△	2012/2/8
	復興庁が業務開始。福島市に復興局、南相馬市といわき市に支所△	2012/2/10
		
	[ふくしま復興の誓い2012 キャンドルナイト「希望のあかり」]	
		
	[石神中学校 自校での授業再開]	[石神第一小学校 自校での授業再開]
	政府主催の東日本大震災一周年追悼式が国立劇場で開催	2012/3/11
		
	[南相馬市東日本大震災追悼式]	[南相馬市東日本大震災追悼式]
	東電の原子力発電所17基が9年ぶりに全て停止	2012/3/26
	東日本大震災で地上デジタルテレビ放送への完全移行が延期されていた岩手、宮城、福島のアナログテレビ放送が終了	2012/3/31

※赤字は地震、津波関連

※赤字は福島第一原発事故関連

※緑字は政府の指示、決定事項

□は福島民報本紙記事の要約

△は「ふくしま1年の記録」

◇は「ふくしまの30日」

☆は「事故独立委員会報告書」

南相馬市長から市民へのメッセージ 平成 23 年 10 月 6 日 Youtube 公開



南相馬市長の桜井勝延でございます。ご無沙汰しております。

市民の皆様にあらためて 10 月 6 日にお知らせとお話申し上げたいと思います。

去る 9 月 30 日に皆様もご存じのように、国が緊急時避難準備区域としての 30km から 20km 圏内について解除が指示されました。このことによって、南相馬市に子どもさんたちが避難先から戻ってくることが制限されていたり、高齢者の方で自主避難できない方について、制限された部分が解除されることになりました。

多くの今までの不自由な部分が解除されたことによって、小中学校の再開、幼稚園保育園の再開が期待されますし、今月中にも区域内にあった 5 校について開校を予定しております。高校についても、今までサテライトとして原町高校、相馬農業高校、小高商業高校がありましたが、このサテライトの形を南相馬市に戻して再開することになると思います。時期については、原町高校については、今月中

という動きもございますが、他の学校については、相馬農業高校についてはまだ示されておりません。また、小高商業高校については、市内に仮設校舎を設けることで、市内にもってこようという動きがございますので、南相馬市としても全力で元の形に戻すように努力をしております（写真-1, 2）。

また皆様が、この解除に向けて、不安材料として多く持っておられる放射能の線量の問題について申し上げたいと思います。

9 月 30 日以前から南相馬市としては 7 月に除染方針として打ち出して、8 月 9 月を除染月間として位置づけて



写真-1 仮設の教室（石神一小）



写真-2 仮設校舎の建設（鹿島小）

まいりました（写真-3, 4, 5）。率先して 30km 圏外の小中学校を中心に除染をすすめて、そして公共施設を順次除染してまいりました。

結果として、例えば上真野小学校であるとか、鹿島小学校であるとか、八沢小学校については、線量を年間 1 ミリシーベルト以下にできるという見通しが立ってまいりました。このことを受けて今、南相馬市の緊急時避難準備区域内においても除染を進めてまいりましたし、先月いっぱいではほぼ完了する予定となっております。

ただ残念なことに台風 15 号の影響で 1 週間程度の遅れはありますが、ほぼ市内の警戒区域、計画的避難区域を除いた部分の公共施設については、除染が完了できる見通しになっております。

このことで、線量が 3 分の 1 程度には下がっているのが実状ですので、あらためて南相馬市が今後生活に支障のない程度まで下げられるということが明らかになったと思っております。このことには背景として、東京大学のアイソトープ総合研究センター長の児玉龍彦教授を中心として、東京大学の教授の皆様方からご支援をいただいた結果だとしてこのようなことができたと考えてございます。

おかげさまで、9 月 30 日付けで東京大学と南相馬市が除染、放射能汚染の低減化に向けた協定書を結ぶことができました（写真-6）。

今後は、東京大学の持っている技術を南相馬市含めて、放射線治療また放射線の低減化に向けた方策について、我々に提供していただけることになりましたので、あらためて市民の皆様の不安を解消するためにも先生方と努力を一つにして、南相馬市の放射線低減化に向けて努力してまいりたいと考えております。



写真-3 除染活動



写真-4 表土剥ぎ取り作業（高平小）



写真-5 表土剥ぎ取り作業（原町二小）



写真-6 東大との協定締結の記者発表

10月5日には上京いたしまして、厚生労働大臣の小宮山洋子大臣はじめ、官庁をまわらせていただきました。

これは、ひとつには30km圏外の鹿島区の皆様が、健康保険であるとか介護保険について、有償になるということから、全市一体の対応をしてほしいということで要望してきたところでございます。

不安がある高速道路の相馬までの支援のみならず、南相馬と富岡間の早期再開に向けて、また開通に向けての要望もしてきたところでございます。

まだまだ南相馬市が復旧復興に向けては、時間がかかるものと思いますが、海岸の復旧と、また防潮林の問題についても国土交通省そして農水省また、環境省等に要望してきているところでございますので、今話題になっております三次補正予算の中でも、南相馬市に対して、十分な予算が獲得できるように、陳情してまいりたいと思っております。

来る10日には、予算委員会のメンバーも南相馬市を訪れる予定になっておりますので、この現状についてもしっかりと報告をして、南相馬市が今後どのような対応をしていただければならないかを、市民の声の下にお伝えをしていきたいと考えてございます。

旧幹事長の岡田氏をはじめとして、渡部恒三代議士等も南相馬市に来ていただけるという予定になってございますので、あらためてこのことも含めて、明確にご報告申し上げたいと思います。

最後に今、南相馬市が復旧に向けては、全市一体となることが、改めて求められていると考えてございます。皆様が心がバラバラになることを避けたいと考えてございますし、小高区、警戒区域としての小高区から30km圏外の鹿島区まで、南相馬市が合併して本当によかったというまちづくりをすすめるためにも、全市一体とした対応を今後ともすすめてまいりたいと考えております。

本日は、福島県庁において、知事あてに義援金の一体的な対応についてお願いをしてまいりました。これも今まで30km圏外の鹿島区に対して、手当てされなかった部分を一次義援金で市の財政から支出したり、二次義援金では全市一体として対応させていただきましたので、今後とも南相馬市対応にあたっては、県が南相馬市を一体とした対応をしていただくようお願いしてきたところです。

皆様と共に、南相馬市を再興していくために、心一つにまた世界に発信できる南相馬市を作っていくためにも、全力で取り組んでまいりますので、皆様の不安を解消すべく全力で取り組んでまいります（写真-7, 8）。



写真-7 第4回復興市民会議



写真-8 ふれあい懇談会

心一つに、今後一緒に再興してまいりたいと思います。ご協力をよろしくお願い申し上げて挨拶にかえさせていただきます。

本当にありがとうございました。

南相馬市長から市民へのメッセージ

平成23年12月28日 Youtube 公開



皆様こんにちは。南相馬市長の桜井勝延でございます。

平成23年年末を迎え、皆様に一言ご挨拶を申し上げます。

平成23年は、輝かしい年となるはずでしたけれども、3月11日の大地震と大津波、そして引き続いて起こった東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、南相馬市民はすべて今までの生活とまったく違った生活を強いられました。

言い方を変えれば、市民全員が運命を変えられてしまうことになってしまいます。この大震災によって、南相馬市民636人の命が亡くなり、現在もなお10名が行方不明でございます。亡くなられた方々に対して心からご冥福をお祈りいたしますとともに、いまだ見つからない方々、そして被災に遭われた方々のご家族の皆様にも心からお見舞いを申し上げたいと思います。

南相馬市民は、震災そして原発事故によってすべてが、心が、かき乱され、今も元通りの生活ができなくて苦しんでいます。

3月12日20km圏外退避、3月15日には30km圏内が屋内退避におかれ、4月22日には、緊急時避難準備区域、計画的避難区域、そして警戒区域と区域があらたに設定され、計画的避難区域、そして警戒区域の方々には自宅に帰ることができない、非常に困難生活を強いることになってしまいました。また、7月にはホットスポットといわれる特定避難勧奨地点の指定がされ、新たに、また市民の生活区域の分断されることになってしまいました。

南相馬市としてこの震災を受けて、いち早く原発事故の対応に追われる中、市民の物流物資不足の中で新潟県知事泉田裕彦県知事から申し入れがあって、新潟県を中心に避難を誘導いたしました。

7万1,000人いた市民が今も、2万4,000人近くが、市外・県外へと離れております。3,500人以上がもうこの南相馬市から住所を移転することになりました。

このような事態の中、南相馬市での生活をなんとか再建したく放射能汚染に対して除染を進めるべく取り組んでまいりました。7月には議会の皆様の理解も得て8月9月と除染月間として位置づけて学校・公共施設を中心に除染してまいりました（写真-9）。



写真-9 第一回除染推進委員会

9月30日に国の方から緊急時避難準備区域が解除されて、10月17日からは小中学校5つが開校再開いたしました（写真-10, 11, 12）。

緊急時避難準備区域解除後、2万2,200人の人々が戻られて、現在4万3,000人ほどの市民が市内に生活しております。



写真-10 学校再開（原町二中）

原発事故で一時期1万人を割り込んでしまった南相馬市民でありましたけれども、なんとか地域を再建しようという市民の力強い支援の下に、現在4万3,000人まで人口が戻ってきております。



写真-11 学校再開（原町一小）

今、国の方から12月16日に警戒区域・計画的避難区域を含めた、区域の見直しのお話が出されておりますけれども、ステップ2完了を前倒しとはいえ、放射能汚染に対する不安が、市民の中にまだまだ多いのが、事実でございます。



写真-12 学校再開（大壠小）

この区域に見直しに当たっては、市民の気持ちを最優先すると同時に、警戒区域内のインフラの整備に全力で取り組んでまいりますし、9か月間住むことができなかった自宅の問題、そして大震災以来まったく手つかずのままの海岸線、被災された小高区内の状況を考えると区域見直しされたとはいえ、住める状況ではありません。

一方で警戒区域内の事業者の方々からは、早期再開の声が多く出されております。

1日でも早い復旧をすすめるために、南相馬市を一体的に復旧させていくために全力で取り組んでまいりますけれども、あらためてこのことに対しては、国の責任

と東京電力の責任を追求すると同時に、南相馬市としても積極的なインフラ回復に向けて取り組んでまいります（写真-13）。

何よりも物流が滞っております。まだまだ交通インフラが整備されておられません。

常磐線が12月21日から原ノ町～相馬間が開通されましたけれども、全線開通にはまだまだ遠いのが現実でございます（写真-14）。



写真-13 東電へ要望書提出



写真-14 常磐線再開

この平成23年は南相馬市にとって最悪の年でありましたが、全国の多くの皆様、世界中の多くの皆様からご支援をいただき、南相馬市復旧のために力をお添えをいただきました。心からお礼を申し上げます。

仮設住宅・借り上げ住宅で、通常の生活とまったく違った生活を強いられている皆様に対して心からお見舞いを申し上げます。

来年こそは、皆様が少しでも幸せを感じられる年にしていくために、今後全力で取り組んでいくことをお誓い申し上げますとともに市職員全員、市民の奉仕者としてしっかりと対応させていただくように、私の方からも一体となって市民支援のために取り組んでまいります（写真-15）。



写真-15 仕事納め式

皆様方の健康とご多幸を心からご祈念申し上げますとともに、南相馬市民が心一つにして、世界に誇る南相馬市の再興実現に向けて、全力で取り組んでまいりたいことを誓い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

**市民の皆様へ 安全と安心の確保を
広報みなみそうま No.68
平成24年1月1日号 掲載**

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

また、市民の皆様からの市政に対するご支援とご協力に心から感謝を申し上げます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災による地震と大津波は、これまで築き上げてきた生活や文化、そして

多くの尊い命を一瞬にして奪い去ってしまいました。さらに、東京電力福島第一原子力発電所の事故は、大量の放射性物質をまき散らす国内最悪の原子力事故となり、生活に必要な物資が滞るなど多くの市民が避難を余儀なくされました。

事故発生から9か月が過ぎた昨年末には、事故の収束に向けた工程表「ステップ2」の達成が政府から発表されました。しかし、未だに原発事故は収束せず、警戒区域も計画的避難区域も残されたままで、2万人を超える市民が市外に避難したままであるなど、本市の根幹を揺り動かす深刻な一年でした。

年が明けても深刻な状況に変わりはありませんが、私は一日でも早く、そして一人でも多くの市民が「南相馬市」で震災前と同じように安心して暮らすことができるよう、全力を挙げて取り組んで参る覚悟です。

まず、今年の最大の目標を「除染」と位置付けました。市民の安全と安心を確保するため、昨年11月に策定した「南相馬市除染計画」に基づき、今後2年間で徹底して除染に取り組んでまいります。これによって、当面の追加被ばく線量の半減を図るとともに、追加被ばく線量の将来目標を年間1mSv未満とするべく取り組んでまいります。

また、昨年12月には市民の皆様や専門家の方からご意見をいただき「南相馬市復興計画」を策定いたしました。これは、今回の未曾有の大震災と原子力災害を克服し「心ひとつに 世界に誇る 南相馬の再興を」をスローガンに掲げ、市民が将来に向けて希望と夢を抱き、安心して住み続けることができる新しい南相馬市の復興ビジョンを示すものです。私は、この計画を基本とし、被災された皆様の生活の再興を図るとともに、市民が安心して暮らし、働くことができるまちづくりに全力を挙げて取り組んでまいります。

今後も、本市を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、様々な困難が待ち受けているものと思います。これらを打開すべく職員一丸となって努力してまいりますので、市民の皆様のお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

新年に当たり、市民の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

南相馬市長から市民へのメッセージ 平成24年1月4日 Youtube 公開



南相馬市長の桜井勝延でございます。

2012年、平成24年、皆様に対して心から新年のご挨拶を申し上げます。

平成23年3月11日に起こった東日本大震災と、東京電力福島第一原子力発電所事故によって南相馬市民が全国各地へと避難を余儀なくされました。

市民それぞれ、家族バラバラになって、今もまだ南相馬市に戻れない市民が、2万4,000人を超えております。年末年始一時ではあっても家族が一つになって団らんのひとときを過ごせたかと思えます。しかし、まだまだ南相馬市が本当に一つになって立ち上がっていくためには、皆様の心が安心できる環境が作られなければなりません。

南相馬市長として市民の皆様に対してこのような事態にまだまだ対処できていないということを深くおわび申し上げます。

ただ今年は、昨年のこの大きな運命を変えたこの大災害に対して、対処することで精いっぱいでありましたけれども、今年はあらたに南相馬市復興計画にもとづいて市民の皆様が少しでも安心していただく環境を作るために全力で取り組んでまいります。

とりわけ、昨年末に発表された警戒区域解除に伴う、区域見直しの政府の発言の通り、南相馬市としても、いち早く小高区中心とする警戒区域の早期の復旧に向けて全力で取り組んでまいります。

南相馬市が合併して今年は7年目を迎えてまいります。合併して良かったと思える南相馬市にしていくために、この大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機に、あらたに心一つにして南相馬市復興のために全力で取り組んでまいりたいと思います。小高区・原町区・鹿島区の皆様それぞれが合併をして本当によかったと思えるようなまちづくりを進めるために、心から皆様に対して、一緒に南相馬市復興に向けて取り組んでいただくようお願いを申し上げる次第です（写真-16）。

この震災にともなあって、全国に避難を余儀なくされたけれども、一方で日本中から、また世界中から南相



写真-16 平成24年仕事始め

馬市支援のために力添えをいただきました。あらためて全国の皆様そして全世界の皆様にご心から感謝申し上げます。

南相馬市は、大震災と原発事故に屈することなく、しっかりと、地に着いた復興を成し遂げるために、振り撒かれた放射線の除染の対策、そして子どもたちがいち早く安心して暮らせる環境を取り戻すために全力で環境浄化に、除染に取り組んでまいります。また、失われた地域医療をしっかりと再建するために、全国に足を運びながら医療環境の充実に努めてまいります。

今、仕事がなくなって商売ができなくなってしまった事業所、商店の皆様に対して、市民がいち早く戻って商売ができ、事業所が活気づくために政府にしっかりと働き掛け



写真-17 相馬双葉漁協要望書提出

てまいりたいと考えてございます（写真-17）。

どうか皆様、南相馬市が、世界に誇れる南相馬市にするために、心一つに世界に誇る南相馬市の復興に向けて全力で取り組んでまいりましょう。

子どもたちを抱える親御さんの皆様も、独居世帯に追い込まれてしまった高齢者の方々に対しても、南相馬市は寄り添って心通い合うまちづくりを一生懸命すすめてまいります。

どうか市民の皆様、一緒に南相馬市復興に向けて、この1年頑張ってください。

皆様のご健康と幸せを心からお祈り申し上げながら、新年の挨拶にかえさせていただきます。

一緒に頑張ってください。

よろしくお願いいたします。

いて放射線による影響検査等の項目を追加して実施します。

復興モデルの世界発信では、『脱原発』の考えの下、あらゆる英知を結集して原子力災害を克服するとともに、原子力から再生可能エネルギーへの転換やその拠点づくり、省エネルギー政策の推進など、環境との共生を目指し、南相馬ならではの創造的「復興モデル」を世界に発信します。

本市の復旧・復興に向けては、これまで同様「市民主役のまちづくり」を進めるために私自身が職員の先頭に立ち、これまで以上に市民目線での市政運営に徹し、市民の力を結集しながら復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

復興に向けての第一歩を

広報みなみそうま No.70

平成 24 年 3 月 1 日号 掲載

今月 11 日には東日本大震災から 1 年の節目を迎えます。犠牲となられた方に改めて哀悼の誠を捧げるとともに復興へ向けての決意を新たにします。

また、東京電力福島第一原子力発電所の事故によって避難を余儀なくされた市民の皆様へ、一日でも早く、そして一人でも多くの市民が「南相馬市」で震災前と同じように安心して暮らすことができるよう、本年を復興元年と位置付け「南相馬市復興計画」を基本に全力を挙げて取り組んでまいります。なかでも「原子力災害の克服」は、「放射性物質による汚染への対応」と『復興モデル』の世界発信の 2 つを基本施策として掲げています。

放射性物質による汚染への対応では、「市除染計画」に基づく除染推進事業によって、生活圏である住宅や道路の除染を、線量の高さに応じて優先順位を付けて実施します。また、市民の健康管理対策では、特定健診にお